

令和2年度 鳥取県立倉吉総合看護専門学校自己評価の結果

令和3年11月現在

項目 平均得点 (5点満点)	学校自己評価結果の概要	学校関係者評価委員会での改善 の提案及び今後の課題
① 学校経営 3. 8	国と県の指針に沿った学校及び寮での感染予防対策と学校運営を行い、各学年が単位を履修し卒業・進級ができた。 適所の人材配置のためには継続して人員確保が課題である。	・コロナ禍の学校運営は評価できる。 ・感染状況に応じた学校関係者評価委員会の開催方法を工夫して実施していく。
② 教育課程・ 教育活動 3. 6	コロナの影響を受け4月に臨時休校となったが計画したカリキュラムを終了した。又臨地実習は、実習を中部地区に限定し、期間や時間数、学内実習への切り替える等実習方法を変更し、実習単位を履修できた。 主たる実習病院では指導者会議が中止となり資料での意見交換をした。また実習指導の機会を活用し実習指導者と連携をとった。 助産学科、第1看護学科は令和4年度新カリキュラム構築のため、現行カリキュラムの評価をして検討を重ね科目を組み立てた。	・令和4年度第1看護学科、助産学科の新カリキュラム改正では、教育理念、教育目標と科目との整合性、時代のニーズと地域性を踏まえた具体的な教育内容の検討と講師依頼を行い、教育課程変更承認申請を行う。 ・指導者会議はウェブ会議も検討していく。
③ 入学・卒業 対策 3. 5	新型コロナウイルス感染症拡大のため、高等学校への訪問は入学実績のある学校にとどめて入学案内を行った。 令和2年度の国家試験合格率は、第1看護学科 93.7%、第2看護学科 100%、助産学科 100%であった。 入学生は第1看護学科 35名、第2看護学科 10名、助産学科 16名で、第2看護学科が定員割れとなった。	・入学生の確保は課題である。インターネットを活用して柔軟に学校PRをしていく。 ・国家試験 100%合格を目指す。
④ 学生生活 への支援 2. 7	令和2年度から修学支援新制度が開始され、授業料の減免と給付型の奨学金を活用できた。政府の示す給付金への申請や学校に紹介のあった奨学金制度を随時提示した。 学生との面談は定期、適時行い、スクールカウンセラーのカウンセリングも継続的に受けられるように調整できている。 就職支援では学内講師による面接や小論文・履歴書の書き方指導を実施した。卒業生への支援では窓口はないが、来校時には教員が対応している。 ボランティア活動、サークル活動はコロナ対策のため活動が休止している。	・県内就業が難しくなる傾向にあり、引続き面接や小論文・履歴書の書き方の指導を行う。 ・新型コロナワクチン接種の支援を継続する。
⑤ 管理運営・ 財政 3. 7	予算計画には計上していないコロナ対策に係る経費が生じたが、県や国の方針に沿って遠隔授業ができるように整備し、授業が円滑に実施できた。新型コロナウイルス感染症対策については、感染症対応マニュアルで対応した。意見箱の設置はしていない。	・感染状況に応じた対応が今後必要である。 ・学生の意見を聞き取れる方法を幾つか有しておく。
⑥ 施設設備 3. 6	校舎、寮は老朽化が著しく修繕箇所が多い。校舎の改修は難しく定期的に点検し今後も計画的な修繕を行う。 遠隔授業ができるように有線を整備し、オンライン授業ができた。 備品やDVD、蔵書数は整備できており、学内実習に対応できた。学内実習においても備品を使用する頻度が高く、定期的に点検し基金を活用し備品を整備していく。	・令和5年3月下旬から寮外壁工事を開始

⑦ 教職員の 育成 2. 0	新型コロナウイルス感染症対策を優先し、教員研修の企画はできなかった。研修への参加が難しく、ウェブ開催に切り替わった研修には参加したが、報告会は行えていない。 専任教員のキャリア別達成目標はあるが、マンパワー不足もあり、計画的な研修参加ができていない。	・感染状況に応じてウェブ開催等の学会等に参加し、計画的に研修参加をしていく。
⑧ 広報・地域 活動 3. 7	新型コロナウイルス感染症の拡大のため、オープンキャンパス、学校祭は中止した。そのため代替手段としてホームページに最新の学校紹介写真やオープンキャンパスでよく聞かれる質問をQ&Aで掲載し、学校PRを行った。 助産学科では実習の位置づけで地域の健康教育を縮小して行い継続した地域貢献ができた。感染対策を講じて地域との連携や協力体制を継続していく。	・ホームページの新着情報や見出しを見やすくすることでコロナ禍での学校PRをしていく。 ・自治会活動で、学校内でできるボランティア活動を自治会で検討する。